

[一般論文]

## 非規範的セクシュアリティに対する大学生の意識・態度

風 間 孝

### はじめに

本稿の目的は、大学生への意識調査の結果から、非規範的セクシュアリティおよび性的指向・性自認について大学生の意識を明らかにすることである。なお本稿における非規範的セクシュアリティとは、性的な面や愛情面でどの性別（ジェンダー）に惹かれるかを指す性的指向や自分の性別をどのように認識するかを指す性自認のありかたが規範的な性とは一致していない性のあり方を指す。本稿における規範的な性とは、性的指向においては異性愛であり、性自認においては出生時に与えられた性と同一であることとする。そこで本稿では、非規範的セクシュアリティを、性的指向においては同性愛および両性愛指向、そして惹かれる性別がわからない・決めたくない等のクエスチョニング、性自認においては出生時の性とは異なる性で生きるトランスジェンダーおよび性同一性障害<sup>1</sup>、性自認が男女のいずれでもないXジェンダーを指すことにしたい。

様々な調査研究が示すように性的指向・性自認が非規範的な児童・生徒・学生は、異性愛規範および性を男女の2つと考える性別二元制が支配的な学校空間において多くの困難に直面し、その中には身体・精神上の問題を抱える者も少なくない<sup>2,3</sup>。そこで本研究では、2012年と2013年に大学生の意識調査を行い、こうした困難を引き起こしうる学生の性的指向・性自

認に関する意識を明らかにすることを試みた。

ここで、性的指向・性自認に係る文部科学省の取り組み（文部科学省 2015；文部科学省 2016）と大学との関係について簡単に触れておく。文部科学省は、性的指向・性自認が非規範的である児童・生徒の実態調査を 2015 年に行い、2016 年には性同一性障害を持った児童・生徒への配慮のあり方を示しているが、その対象は小学校・中学校・高等学校にとどまっており、大学に対しては明確な方向性を示していない。一方で、近年、性的指向・性自認にかかわらず、すべての大学の構成員が学びやすく、働きやすい環境の整備を、ダイバーシティ保障と位置づけ、取り組む大学も徐々に増えつつある。すべての大学の構成員が学びやすく、働きやすい環境の実現は、大学が掲げる理念と合致するものである以上、いずれは大学においても、性的指向・性自認に関する取り組みは必須となってくると考えられる<sup>4</sup>。こうした状況を踏まえ、本研究は、性的指向・性自認の多様性を認め合う大学づくりを進めるために、性的指向・性自認に関して取り組む際の基礎データを提供することを目指している。なお本研究は、JSPS 科研費（課題番号 22510297）の助成を受けた「日本におけるクィア・スタディーズの展開」（研究代表者 中京大学 風間孝）（2010～2013 年度）の研究成果の一部である。

## 1 方法および属性

### (1) 方法

関東・東海・中国地方にある 3 つの大学の学部生を対象に、2012 年 9 月と 2013 年 7 月に大学の授業内において調査を実施した（回収数 1012）。なお、この調査票は質問数が多いことから、質問数を減らした 3 つタイプの調査票（A～C）を作成し、これらを組み合わせながら調査を設計した。属性等は A～C すべてにおいて尋ねているが、他の項目については A～C

のうち2つ、もしくは1つにおいて答えてもらうよう設計したため、以下では、質問項目によっては回答数が1012と異なっている。A～Cの回収数は、A：337、B：345、C：330である。

(2) 属性

学年の構成は、1年生が51.0% (n=516)、2年生29.5% (n=295)、3年生15.6% (n=158)、4年生3.6% (n=36)であった。

性別については、法律上の性別と自身が認識している性別（性自認）にわけて尋ねた。まず法律上の性別は、男性48.1% (n=487)、女性48.2% (n=488)、無回答が3.7% (n=37)であった。つぎに性自認別では、男性47.5% (n=481)、47.6% (n=482)、その他0.2% (n=2)、無回答4.6% (n=47)であった。

法律上の性別と性自認のクロス集計を以下に示す。(表1)。

法律上の性別が男性と回答した者のうち、性自認が男性97.3% (n=474)、女性1.0% (n=5)、その他0.2% (n=1)、無回答1.4% (n=7)であった。つぎに法律上の性別が女性と答えた者のうち、性自認が女性97.5% (n=476)、男性0.8% (n=4)、その他0.2% (n=1)、無回答1.4% (n=7)であった。以上から、法律上の性別と性自認が一致しない者は少なくとも1.1% (n=11)いることが明らかになった(表の網掛け部分参照)。なお、以下

表1 法律上の性別と性自認の関係

		性 自 認									
		男		女		その他		無回答		合 計	
		n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
法律上の性別	男	474	97.3%	5	1.0%	1	0.2%	7	1.4%	487	100.0%
	女	4	0.8%	476	97.5%	1	0.2%	7	1.4%	488	100.0%
	無回答	3	8.1%	1	2.7%	0	0.0%	33	89.2%	37	100.0%
	合計	481	47.5%	482	47.6%	2	0.2%	47	4.6%	1012	100.0%

の性別を用いた分析にあたっては、回答者の自認を尊重するため、法律上の性別ではなく、性自認を用いることとする。

性的指向については、異性愛者、同性愛者、両性愛者、わからない、決めたくない・決めてない、その他、言葉の意味がよく分からない、から選んでもらった(表2)。全体では、異性愛者83.5%(n=845)、同性愛者0.2%(n=2)、両性愛者1.9%(n=19)、わからない4.9%(n=50)、決めたくない・決めてない2.5%(n=25)、その他0.2%(n=2)であった。

男性の性自認をもつ学生(n=481)では、異性愛者と答えた者は89.2%(n=429)、同性愛者0%(n=0)、両性愛者1.0%(n=5)、わからない4.0%(n=19)、決めたくない・決めていない1.7%(n=8)、その他0.4%(n=2)、言葉の意味が分からない2.5%(n=12)、無回答1.2%(n=6)であった。

つぎに女性の性自認を持つ学生(n=482)では、異性愛者85.9%(n=414)、同性愛者0.2%(n=1)、両性愛者2.7%(n=13)、わからない6.4%

表2 性自認と性的指向の関係

		性的指向									
		異性愛者	同性愛者	両性愛者	わからない	決めたくない・決めてない	その他	言葉の意味がよくわからない	無回答	合計	
性自認	男	n	429	0	5	19	8	2	12	6	481
		%	89.2%	0.0%	1.0%	4.0%	1.7%	0.4%	2.5%	1.2%	100.0%
	女	n	414	1	13	31	16	0	2	5	482
		%	85.9%	0.2%	2.7%	6.4%	3.3%	0.0%	0.4%	1.0%	100.0%
	その他	n	0	1	1	0	0	0	0	0	2
		%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	無回答	n	2	0	0	0	1	0	0	44	47
		%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	0.0%	0.0%	93.6%	100.0%
	合計	n	845	2	19	50	25	2	14	55	1012
		%	83.5%	0.2%	1.9%	4.9%	2.5%	0.2%	1.4%	5.4%	100.0%

(n=31)、決めたくない・決めていない3.3% (n=16)、その他0% (n=0)、言葉の意味が分からない0.4% (n=2)、無回答1.0% (n=5)であった。

以上から、言葉の意味が分からない、および無回答を除いて、性的指向において異性愛を選択しなかった者は9.7% (n=98)となった（表の網掛け部分参照）。

## 2 結果

### (1) 同性間および両性間の恋愛感情に対する男女の態度の比較（表3）

表3は、性自認ごとに男性同士の恋愛感情、女性同士の恋愛感情、男女両方への恋愛感情に対して嫌悪感を持つ者の人数を集計したものである。なお以下の分析では、性自認を「その他」と答えた者に関しては、回答者数が少ないため、分析から除外した。2検定の結果、全3項目において両群の人数比率の差は有意であった（それぞれ $p < 0.001$ ,  $p < 0.05$ ,  $p < 0.001$ ）。残差分析により、「男性同士の恋愛感情はおかしい」では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」で男性の回答が度数43、85であるのに対し期待度数は27.8、66.7であり、期待値よりも有意に多く、「そう思わない」では女性の回答が度数157に対し、期待度数は124.1であり、期待値よりも有意に多かった（表の網掛け部分参照。なお、残差分析で有意となったところには表に網掛けを付してある。以下も同様）。つぎに「女性同士の恋愛感情はおかしい」では、「そう思う」で男性の回答が期待値より有意に多かった。最後に「男女両方への恋愛感情はおかしい」では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」で男性の回答が期待値より有意に多く、「そう思わない」では女性の回答が期待値より有意に多かった。このことから、男性の方が、男性同士の恋愛感情・女性同士の恋愛感情および男女両方への恋愛感情に対して否定的な感情を持つ人の多いことが分かった。

表 3 同性間および両性間の恋愛感情に対する男女の態度の比較 (1/2)

			性自認		合計
			男	女	
男性が男性に 恋愛感情を抱く ことは、おかしい	そう思う	度数	43	14	57
		期待度数	27.8	29.2	57
		総和の%	6.9%	2.3%	9.2%
		調整済み残差	4.2	-4.2	
	どちらかと いえば そう思う	度数	85	52	137
		期待度数	66.7	70.3	137
		総和の%	13.7%	8.4%	22.0%
		調整済み残差	3.5	-3.5	
	どちらかと いえば そう思わない	度数	90	96	186
		期待度数	90.6	95.4	186
		総和の%	14.5%	15.4%	29.9%
		調整済み残差	-0.1	0.1	
そう思わない	度数	85	157	242	
	期待度数	117.9	124.1	242	
	総和の%	13.7%	25.2%	38.9%	
	調整済み残差	-5.4	5.4		
合計		度数	303	319	622
		期待度数	303	319	622
		総和の%	48.7%	51.3%	100.0%
女性が女性に 恋愛感情を抱く ことは、おかしい	そう思う	度数	24	4	28
		期待度数	13.7	14.3	28
		総和の%	3.9%	0.6%	4.5%
		調整済み残差	4	-4	
	どちらかと いえば そう思う	度数	69	64	133
		期待度数	64.9	68.1	133
		総和の%	11.1%	10.3%	21.4%
		調整済み残差	0.8	-0.8	
	どちらかと いえば そう思わない	度数	88	99	187
		期待度数	91.2	95.8	187
		総和の%	14.2%	15.9%	30.1%
		調整済み残差	-0.6	0.6	
そう思わない	度数	122	151	273	
	期待度数	133.2	139.8	273	
	総和の%	19.6%	24.3%	44.0%	
	調整済み残差	-1.8	1.8		
合計		度数	303	318	621
		期待度数	303	318	621
		総和の%	48.8%	51.2%	100.0%

表 3 同性間および両性間の恋愛感情に対する男女の態度の比較（2/2）

			性自認		合計
			男	女	
男女両方に 恋愛感情を抱く人は、 どこかおかしい	そう思う	度数	30	7	37
		期待度数	18	19	37
		総和の%	4.8%	1.1%	5.9%
		調整済み残差	4.1	-4.1	
	どちらかとい えば そう思う	度数	78	51	129
		期待度数	62.8	66.2	129
		総和の%	12.5%	8.2%	20.7%
		調整済み残差	3	-3	
	どちらかとい えば そう思わない	度数	86	96	182
		期待度数	88.7	93.3	182
		総和の%	13.8%	15.4%	29.2%
		調整済み残差	-0.5	0.5	
	そう思わない	度数	110	166	276
		期待度数	134.5	141.5	276
		総和の%	17.6%	26.6%	44.2%
		調整済み残差	-3.9	3.9	
合計	度数	304	320	624	
	期待度数	304	320	624	
	総和の%	48.7%	51.3%	100.0%	

## (2) 男性間および女性間の性行為に対する男女の態度の比較（表 4）

表 4 は、性自認ごとに男性同士の性行為および女性同士の性行為に嫌悪感を持つ者の人数を集計したものである。2 検定の結果、両群の人数比率はいずれも有意であった ( $p < 0.001$ ,  $p < 0.01$ )。残差分析によれば、「男性同士の性行為は気持ち悪い」では「そう思う」において男性の回答が期待値より有意に多く、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」では女性の回答が期待値より有意に多かった。「女性同士の性行為は気持ち悪い」では女性の「そう思う」の回答が期待値より有意に多く、「そう思わない」では男性の回答が期待値より有意に多かった。以上から、男性同士の性行為では男性に嫌悪感が強く、女性同士の性行為では女性に嫌悪感の強いことが明らかになった。

表4 男性間および女性間の性行為に対する男女の態度の比較

			性自認		合計
			男	女	
男性同士の性行為は、 気持ちが悪い	そう思う	度数	150	84	234
		期待度数	113.4	120.6	234
		総和の%	24.2%	13.5%	37.7%
		調整済み残差	6.1	-6.1	
	どちらかと いえば そう思う	度数	93	97	190
		期待度数	92.1	97.9	190
		総和の%	15.0%	15.6%	30.6%
		調整済み残差	0.2	-0.2	
	どちらかと いえば そう思わない	度数	31	67	98
		期待度数	47.5	50.5	98
		総和の%	5.0%	10.8%	15.8%
		調整済み残差	-3.6	3.6	
そう思わない	度数	27	72	99	
	期待度数	48	51	99	
	総和の%	4.3%	11.6%	15.9%	
	調整済み残差	-4.6	4.6		
合計		度数	301	320	621
		期待度数	301	320	621
		総和の%	48.5%	51.5%	100.0%
女性同士の性行為は、 気持ちが悪い	そう思う	度数	45	75	120
		期待度数	58.6	61.4	120
		総和の%	7.2%	12.0%	19.3%
		調整済み残差	-2.8	2.8	
	どちらかと いえば そう思う	度数	84	108	192
		期待度数	93.7	98.3	192
		総和の%	13.5%	17.3%	30.8%
		調整済み残差	-1.7	1.7	
	どちらかと いえば そう思わない	度数	84	67	151
		期待度数	73.7	77.3	151
		総和の%	13.5%	10.8%	24.2%
		調整済み残差	1.9	-1.9	
そう思わない	度数	91	69	160	
	期待度数	78.1	81.9	160	
	総和の%	14.6%	11.1%	25.7%	
	調整済み残差	2.4	-2.4		
合計		度数	304	319	623
		期待度数	304	319	623
		総和の%	48.8%	51.2%	100.0%

(3) 性別越境に対する男女の不快感の比較（表5）

表5は、性自認ごとに性別越境に対する不快感を集計したものである。

2検定の結果、「女性のような振る舞いをする男性をみると不快になる」「男性のような振る舞いをする女性をみると不快になる」において、両群の人数比率の差は有意であった（いずれも  $p < 0.001$ ）。残差分析によれば、「女性のような振る舞いをする男性をみると不快になる」「男性のような振る舞いをする女性をみると不快になる」のいずれも、男性のほうが「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答が有意に多く、「そう思わない」では回答が有意に少なかった。このことから、男性のほうが女性よりも性別越境に関して強い不快感を持つことが明らかになった。

(4) 性的マイノリティと友達になることへの抵抗感に対する男女の比較（表6）

表6は、性自認ごとに男性の同性愛者、女性の同性愛者、男女両方に恋愛感情を抱く人、性転換した人と友達になることへの抵抗感を集計したものである。2検定の結果、両群の人数比率の差は、男性の同性愛者、男女両方に恋愛感情を抱く人、性転換した人で有意であり（ $p < 0.001$ ,  $p < 0.01$ ,  $p < 0.001$ ）、女性の同性愛者では有意でなかった。残差分析によれば、「男性の同性愛者と友達になることに抵抗はない」では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」で期待値より有意に女性の回答が多く、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」では期待値より有意に男性の回答が多かった。「男女両方に恋愛感情を抱く人と友達になることに抵抗がある」では、「どちらかといえばそう思う」で期待値より有意に男性の回答が多く、「そう思わない」で有意に女性の回答が多かった。「性転換をした人と友達になることに抵抗がある」では「そう思う」において男性の回答が期待値より有意に多く、「そう思わない」では女性の回答が期待値より有意に多かった。このことから、男性の方が男性の同性愛者、男女両方に恋愛感情を抱く人、性転換した人と友達になることに抵抗感が強

表5 性別越境に対する男女の不快感

			性自認		合計
			男	女	
女性のような 振る舞いをする 男性をみると、 不快になる	そう思う	度数	44	9	53
		期待度数	25.9	27.1	53
		総和の%	7.0%	1.4%	8.5%
		調整済み残差	5.2	-5.2	
	どちらかと いえば そう思う	度数	103	62	165
		期待度数	80.5	84.5	165
		総和の%	16.5%	9.9%	26.4%
		調整済み残差	4.1	-4.1	
	どちらかと いえば そう思わない	度数	87	114	201
		期待度数	98.1	102.9	201
		総和の%	13.9%	18.2%	32.2%
		調整済み残差	-1.9	1.9	
そう思わない	度数	71	135	206	
	期待度数	100.5	105.5	206	
	総和の%	11.4%	21.6%	33.0%	
	調整済み残差	-5	5		
合計		度数	305	320	625
		期待度数	305	320	625
		総和の%	48.8%	51.2%	100.0%
男性のような 振る舞いをする 女性をみると、 不快になる	そう思う	度数	18	2	20
		期待度数	9.8	10.2	20
		総和の%	2.9%	0.3%	3.2%
		調整済み残差	3.7	-3.7	
	どちらかと いえば そう思う	度数	57	25	82
		期待度数	40	42	82
		総和の%	9.1%	4.0%	13.1%
		調整済み残差	4	-4	
	どちらかと いえば そう思わない	度数	99	99	198
		期待度数	96.6	101.4	198
		総和の%	15.8%	15.8%	31.7%
		調整済み残差	0.4	-0.4	
そう思わない	度数	131	194	325	
	期待度数	158.6	166.4	325	
	総和の%	21.0%	31.0%	52.0%	
	調整済み残差	-4.4	4.4		
合計		度数	305	320	625
		期待度数	305	320	625
		総和の%	48.8%	51.2%	100.0%

表6 性的マイノリティと友達になることに対する男女の比較（1/2）

		性自認		合計	
		男	女		
男性の同性愛者と友達になることに抵抗はない	そう思う	度数	69	121	190
		期待度数	98.2	91.8	190
		総和の%	10.6%	18.6%	29.1%
		調整済み残差	-5	5	
	どちらかといえば そう思う	度数	94	115	209
		期待度数	108	101	209
		総和の%	14.4%	17.6%	32.1%
		調整済み残差	-2.4	2.4	
	どちらかといえば そう思わない	度数	131	63	194
		期待度数	100.3	93.7	194
		総和の%	20.1%	9.7%	29.8%
		調整済み残差	5.3	-5.3	
そう思わない	度数	43	16	59	
	期待度数	30.5	28.5	59	
	総和の%	6.6%	2.5%	9.0%	
	調整済み残差	3.4	-3.4		
合計		度数	337	315	652
		期待度数	337	315	652
		総和の%	51.7%	48.3%	100.0%
女性の同性愛者と友達になることに抵抗はない	そう思う	度数	117	121	238
		期待度数	123	115	238
		総和の%	17.9%	18.6%	36.5%
		調整済み残差	-1	1	
	どちらかといえば そう思う	度数	150	117	267
		期待度数	138	129	267
		総和の%	23.0%	17.9%	41.0%
		調整済み残差	1.9	-1.9	
	どちらかといえば そう思わない	度数	59	68	127
		期待度数	65.6	61.4	127
		総和の%	9.0%	10.4%	19.5%
		調整済み残差	-1.3	1.3	
そう思わない	度数	11	9	20	
	期待度数	10.3	9.7	20	
	総和の%	1.7%	1.4%	3.1%	
	調整済み残差	0.3	-0.3		
合計		度数	337	315	652
		期待度数	337	315	652
		総和の%	51.7%	48.3%	100.0%

表6 性的マイノリティと友達になることに対する男女の比 (2/2)

			性自認		合計
			男	女	
男女両方に 恋愛感情を抱く人と 友達になることに 抵抗がある	そう思う	度数	21	15	36
		期待度数	18.6	17.4	36
		総和の%	3.2%	2.3%	5.5%
		調整済み残差	0.8	-0.8	
	どちらかと いえば そう思う	度数	100	62	162
		期待度数	83.9	78.1	162
		総和の%	15.4%	9.5%	24.9%
		調整済み残差	2.9	-2.9	
	どちらかと いえば そう思わない	度数	132	120	252
		期待度数	130.5	121.5	252
		総和の%	20.3%	18.4%	38.7%
		調整済み残差	0.2	-0.2	
	そう思わない	度数	84	117	201
		期待度数	104.1	96.9	201
		総和の%	12.9%	18.0%	30.9%
		調整済み残差	-3.4	3.4	
合計		度数	337	314	651
		期待度数	337	314	651
		総和の%	51.8%	48.2%	100.0%
性転換をした人と 友達になることに 抵抗がある	そう思う	度数	30	8	38
		期待度数	19.7	18.3	38
		総和の%	4.6%	1.2%	5.9%
		調整済み残差	3.5	-3.5	
	どちらかと いえば そう思う	度数	94	49	143
		期待度数	74	69	143
		総和の%	14.5%	7.6%	22.0%
		調整済み残差	3.8	-3.8	
	どちらかと いえば そう思わない	度数	128	126	254
		期待度数	131.5	122.5	254
		総和の%	19.7%	19.4%	39.1%
		調整済み残差	-0.6	0.6	
	そう思わない	度数	84	130	214
		期待度数	110.8	103.2	214
		総和の%	12.9%	20.0%	33.0%
		調整済み残差	-4.5	4.5	
合計		度数	336	313	649
		期待度数	336	313	649
		総和の%	51.8%	48.2%	100.0%

く、女性同性愛では友達になることへの抵抗感に男女間で差のないことが確かめられた。

(5) 友人・知人がいることと同性愛者・性転換している・考えている人への認識・態度

同性愛者や性転換を考えている・している人が友人・知人にいる割合（表7）

表7は、性自認ごとの、同性愛者の友人や知人がいる人、および性転換を考えている・している人が友人・知人にいる人の人数比率を示している。

2検定の結果、両群の人数比率の差は、同性愛者の友人・知人で有意傾向であり ( $p < 0.1$ )、性転換を考えている・している友人・知人では有意ではなかった ( $p = 0.101$ )。

残差分析によれば、「同性愛者の友人・知人」では、「いる」で期待値より女性の回答が有意に多かった。「性転換を考えている友人・知人」でも「いる」において期待値より有意に女性の回答が多かった。このことから、女性の方が同性愛者および性転換をした友人・知人をもつことの多いことが明らかになった。

友人・知人がいる（かもしれない）ことと性的マイノリティの友達をもつことへの抵抗感（表8、9）

表8は、性自認ごとの、友人・知人に同性愛者が「いる」「いるかもしれない」「わからない」と答えた群（以下、「いる（かもしれない）・わからない」群）と「いない」と答えた群（以下、「いない」群）における、男性の同性愛者・女性の同性愛者・男女両方に惹かれる人と友達になることに抵抗感を示す者の人数比率を集計したものである。なお、性的マイノリティは不可視化されることが多い中で、「いない」と断言することは、性的マイノリティが周囲に存在する可能性を予め否定する態度である一方、「いるかもしれない」「わからない」は存在する可能性を想定している点に

表7 同性愛者および性転換をしている・考えている友人・知人がいる割合

			性自認		合計
			男	女	
同性愛者の 友人・知人	いる	度数	39	66	105
		期待度数	51.4	53.6	105
		総和の%	6.1%	10.3%	16.4%
		調整済み残差	-2.7	2.7	
	いない	度数	191	182	373
		期待度数	182.7	190.3	373
		総和の%	29.9%	28.5%	58.4%
		調整済み残差	1.3	-1.3	
	いるかも しれない	度数	30	29	59
		期待度数	28.9	30.1	59
		総和の%	4.7%	4.5%	9.2%
		調整済み残差	0.3	-0.3	
	わからない	度数	53	49	102
		期待度数	50	52	102
		総和の%	8.3%	7.7%	16.0%
		調整済み残差	0.7	-0.7	
合計		度数	313	326	639
		期待度数	313	326	639
		総和の%	49.0%	51.0%	100.0%
性転換を 考えている 友人・知人	いる	度数	6	16	22
		期待度数	10.8	11.2	22
		総和の%	0.9%	2.5%	3.4%
		調整済み残差	-2.1	2.1	
	いない	度数	253	250	503
		期待度数	246	257	503
		総和の%	39.5%	39.1%	78.6%
		調整済み残差	1.3	-1.3	
	いるかも しれない	度数	4	9	13
		期待度数	6.4	6.6	13
		総和の%	0.6%	1.4%	2.0%
		調整済み残差	-1.3	1.3	
	わからない	度数	50	52	102
		期待度数	49.9	52.1	102
		総和の%	7.8%	8.1%	15.9%
		調整済み残差	0	0	
合計		度数	313	327	640
		期待度数	313	327	640
		総和の%	48.9%	51.1%	100.0%

において「いない」とは区別される必要があると考え、分析にあたって「いるかもしれない」「わからない」の回答者も「いる」の回答者と同じ群に含め分析することとした。

2 検定の結果、性自認ごとの回答結果について、「男性の同性愛者と友達になることに抵抗はない」では男性では有意傾向 ( $0.5 < p < 0.1$ )、女性では有意 ( $p < 0.01$ )、「女性の同性愛者と友達になることに抵抗はない」では男女ともに有意 ( $p < 0.05$ ,  $p < 0.001$ )、「男女両方に恋愛感情を抱く人と友達になることに抵抗がある」でも男女ともに有意 ( $p < 0.05$ ,  $p < 0.001$ )であった ( $p < 0.05$ )。

以下、残差分析の結果を記す。「男性の同性愛者と友達になることに抵抗はない」では、男性・女性ともに「そう思う」で「いる（かもしれない）・わからない」群の方が期待値より有意に回答が多く、「どちらかといえばそう思わない」で「いない」群の方が期待値より有意に回答が多かった。「女性の同性愛者と友達になることに抵抗はない」では、男性では「そう思う」で「いる（かもしれない）・わからない」群の方が期待値より有意に回答が多かった。女性においては、「そう思う」で「いる（かもしれない）・わからない」群の方が期待値より有意に回答が多く、「どちらかといえばそう思わない」で「いない」群の方が期待値より有意に回答が多かった。「男女両方に恋愛感情を抱く人と友達になることに抵抗がある」では、男性において「そう思わない」で「いる（かもしれない）・わからない」群の方が期待値より有意に回答が多く、女性において「どちらかといえばそう思う」で「いない」群の方が期待値より有意に回答が多く、「そう思わない」で「いる（かもしれない）・わからない」群の方が期待値より有意に回答が多かった。以上から、「いる（かもしれない）・わからない」群は、「いない」群よりも、友達になることへの抵抗感の低いことが示された。

表9は、性自認ごとの、友人・知人に性転換をしている・考えている者

表8 同性愛者の友人・知人がいることと友達になることへの抵抗感 (1/3)

				同性愛者の友人・知人		合計
				いる(かもしれない)・わからない	いない	
男	男性の同性愛者と友達になることに抵抗はない	そう思う	度数	17	11	28
			期待度数	11.6	16.4	28
			総和の%	9.9%	6.4%	16.3%
			調整済み残差	2.3	-2.3	
	どちらかといえばそう思う	度数	期待度数	21	32	53
			期待度数	21.9	31.1	53
			総和の%	12.2%	18.6%	30.8%
			調整済み残差	-0.3	0.3	
	どちらかといえばそう思わない	度数	期待度数	22	47	69
			期待度数	28.5	40.5	69
総和の%			12.8%	27.3%	40.1%	
調整済み残差			-2	2		
そう思わない	度数	期待度数	11	11	22	
		期待度数	9.1	12.9	22	
		総和の%	6.4%	6.4%	12.8%	
		調整済み残差	0.9	-0.9		
合計	度数	期待度数	71	101	172	
		期待度数	71	101	172	
		総和の%	41.3%	58.7%	100.0%	
		調整済み残差				
女	男性の同性愛者と友達になることに抵抗はない	そう思う	度数	39	24	63
			期待度数	29.1	33.9	63
			総和の%	24.4%	15.0%	39.4%
			調整済み残差	3.2	-3.2	
	どちらかといえばそう思う	度数	期待度数	20	34	54
			期待度数	25	29	54
			総和の%	12.5%	21.3%	33.8%
			調整済み残差	-1.7	1.7	
	どちらかといえばそう思わない	度数	期待度数	10	26	36
			期待度数	16.7	19.4	36
総和の%			6.3%	16.3%	22.5%	
調整済み残差			-2.5	2.5		
そう思わない	度数	期待度数	5	2	7	
		期待度数	3.2	3.8	7	
		総和の%	3.1%	1.3%	4.4%	
		調整済み残差	1.4	-1.4		
合計	度数	期待度数	74	86	160	
		期待度数	74	86	160	
		総和の%	46.3%	53.8%	100.0%	
		調整済み残差				

表8 同性愛者の友人・知人がいることと友達になることへの抵抗感（2/3）

				同性愛者の友人・知人		合計
				いる(かもしれない)・わからない	いない	
男	女性の同性愛者と友達になることに抵抗はない	そう思う	度数	30	22	52
			期待度数	21.6	30.4	52
			総和の%	17.3%	12.7%	30.1%
			調整済み残差	2.8	-2.8	
	どちらかといえばそう思う	度数	期待度数	29	52	81
			期待度数	33.7	47.3	81
			総和の%	16.8%	30.1%	46.8%
			調整済み残差	-1.5	1.5	
	どちらかといえばそう思わない	度数	期待度数	11	23	34
			期待度数	14.2	19.8	34
総和の%			6.4%	13.3%	19.7%	
調整済み残差			-1.2	1.2		
そう思わない	度数	期待度数	2	4	6	
		期待度数	2.5	3.5	6	
		総和の%	1.2%	2.3%	3.5%	
		調整済み残差	-0.4	0.4		
合計			度数	72	101	173
			期待度数	72	101	173
			総和の%	41.6%	58.4%	100.0%
女	女性の同性愛者と友達になることに抵抗はない	そう思う	度数	43	22	65
			期待度数	30.1	34.9	65
			総和の%	26.9%	13.8%	40.6%
			調整済み残差	4.2	-4.2	
	どちらかといえばそう思う	度数	期待度数	28	40	68
			期待度数	31.5	36.6	68
			総和の%	17.5%	25.0%	42.5%
			調整済み残差	-1.1	1.1	
	どちらかといえばそう思わない	度数	期待度数	3	21	24
			期待度数	11.1	12.9	24
総和の%			1.9%	13.1%	15.0%	
調整済み残差			-3.6	3.6		
そう思わない	度数	期待度数	0	3	3	
		期待度数	1.4	1.6	3	
		総和の%	0.0%	1.9%	1.9%	
		調整済み残差	-1.6	1.6		
合計			度数	74	86	160
			期待度数	74	86	160
			総和の%	46.3%	53.8%	100.0%

表8 同性愛者の友人・知人がいることと友達になることへの抵抗感 (3/3)

			同性愛者の友人・知人		合計	
			いる(かもしれない)・わからない	いない		
男	男女両方に恋愛感情を抱く人と友達になることに抵抗がある	そう思う	度数	3	8	11
			期待度数	4.6	6.4	11
			総和の%	1.7%	4.7%	6.4%
			調整済み残差	-1.0	1.0	
	どちらかといえはそう思う	度数	期待度数	16	35	51
			期待度数	21.3	29.7	51
			総和の%	9.3%	20.3%	29.7%
			調整済み残差	-1.8	1.8	
	どちらかといえはそう思わない	度数	期待度数	31	44	75
			期待度数	31.4	43.6	75
総和の%			18.0%	25.6%	43.6%	
調整済み残差			-0.1	0.1		
そう思わない	度数	期待度数	22	13	35	
		期待度数	14.7	20.3	35	
		総和の%	12.8%	7.6%	20.3%	
		調整済み残差	2.8	-2.8		
合計		度数	72	100	172	
		期待度数	72	100	172	
		総和の%	41.9%	58.1%	100.0%	
女	男女両方に恋愛感情を抱く人と友達になることに抵抗がある	そう思う	度数	5	3	8
			期待度数	3.7	4.3	8
			総和の%	3.1%	1.9%	5.0%
			調整済み残差	0.9	-0.9	
	どちらかといえはそう思う	度数	期待度数	6	23	29
			期待度数	13.4	15.6	29
			総和の%	3.8%	14.4%	18.1%
			調整済み残差	-3.1	3.1	
	どちらかといえはそう思わない	度数	期待度数	23	41	64
			期待度数	29.6	34.4	64
総和の%			14.4%	25.6%	40.0%	
調整済み残差			-2.1	2.1		
そう思わない	度数	期待度数	40	19	59	
		期待度数	27.3	31.7	59	
		総和の%	25.0%	11.9%	36.9%	
		調整済み残差	4.2	-4.2		
合計		度数	74	86	160	
		期待度数	74	86	160	
		総和の%	46.3%	53.8%	100.0%	

表9 性転換した友人・知人がいることと友達になることへの抵抗感

			同性愛者の友人・知人		合計	
			いる(かもしれない)・わからない	いない		
男	性転換した人と友達になることに抵抗がある	そう思う	度数	3	9	12
			期待度数	2.5	9.5	12
			総和の%	1.7%	5.2%	7.0%
			調整済み残差	0.4	-0.4	
	どちらかといえばそう思う	度数	8	48	56	
			期待度数	11.7	44.3	56
			総和の%	4.7%	27.9%	32.6%
			調整済み残差	-1.5	1.5	
	どちらかといえばそう思わない	度数	14	54	68	
			期待度数	14.2	53.8	68
総和の%			8.1%	31.4%	39.5%	
調整済み残差			-0.1	0.1		
そう思わない	度数	11	25	36		
		期待度数	7.5	28.5	36	
		総和の%	6.4%	14.5%	20.9%	
		調整済み残差	1.6	-1.6		
合計	度数	36	136	172		
	期待度数	36	136	172		
	総和の%	20.9%	79.1%	100.0%		
女	性転換した人と友達になることに抵抗がある	そう思う	度数	1	4	5
			期待度数	1.3	3.7	5
			総和の%	0.6%	2.5%	3.1%
			調整済み残差	-0.3	0.3	
	どちらかといえばそう思う	度数	2	27	29	
			期待度数	7.4	21.6	29
			総和の%	1.2%	16.8%	18.0%
			調整済み残差	-2.5	2.5	
	どちらかといえばそう思わない	度数	14	47	61	
			期待度数	15.5	45.5	61
総和の%			8.7%	29.2%	37.9%	
調整済み残差			-0.6	0.6		
そう思わない	度数	24	42	66		
		期待度数	16.8	49.2	66	
		総和の%	14.9%	26.1%	41.0%	
		調整済み残差	2.6	-2.6		
合計	度数	41	120	161		
	期待度数	41	120	161		
	総和の%	25.5%	74.5%	100.0%		

が「いる (かもしれない)・わからない」群と「いない」群における、性転換した人と友達になることに抵抗感を示す者の人数比率を示したものである。2検定の結果、「性転換した人と友達になることに抵抗がある」では男性で有意ではなく、女性において有意であった ( $p < 0.05$ )。

以下、2検定で有意であった女性の回答について残差分析の結果を述べる。「性転換した人と友達になることに抵抗がある」では、女性において「どちらかといえばそう思う」で「いない」群の方が期待値よりも有意に回答が多く、「そう思わない」では「いる (かもしれない)・わからない」群の方が期待値よりも有意に回答が多かった。このことから、女性において、性転換した友人・知人が「いる (かもしれない)・わからない」群の方が、性転換している人と友達になることへの抵抗感の低いことが確かめられた一方、男性においては「いる (かもしれない)・わからない」群と「いない」群の間に、友達となることへの抵抗感に差は見られないことが確かめられた。

友人・知人がいる (かもしれない) ことと性的マイノリティへの嫌悪感 (表 10、11、12)

表 10 は、性自認ごとに、友人・知人のなかに同性愛者が「いる (かもしれない)・わからない」群と「いない」群において、同性間の恋愛感情および性行為に対して嫌悪感を持つ人の人数比率を集計したものである。

2検定の結果、「男性が男性に恋愛感情を抱くことはおかしい」では、男性は有意でなかったが、女性は有意であった ( $p < 0.01$ )。「女性が女性に恋愛感情を抱くことはおかしい」でも、男性は有意でなかったが、女性は有意であった ( $p < 0.01$ )。

残差分析によれば、「男性が男性に恋愛感情を抱くことはおかしい」では、女性において「どちらかといえばそう思う」で「いない」群が期待値よりも有意に回答が多く、「そう思わない」で「いる (かもしれない)・わからない」群が期待値が有意に回答が多かった。「女性が女性に恋愛感情を

抱くことはおかしい」では、女性において「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」で「いない」が期待値より有意に回答が多く、「そう思わない」では「いる（かもしれない）・わからない」が期待値より有意に回答が多かった。このことから、女性において同性愛者の友人・知人が「いる（かもしれない）・わからない」群と、同性間の恋愛感情および性行為に対する嫌悪感の低さとの間に関連のあることが確かめられた。

表 11 は、性自認ごとに、友人・知人のなかに同性愛者が「いる（かもしれない）・わからない」と答えた群と「いない」と答えた群において、性行為に対して嫌悪感を持つ人の人数比率を集計したものである。2 検定の結果、「男性同士の性行為は気持ちが悪い」では、男性・女性ともに有意であった ( $p < 0.05$ ,  $p < 0.001$ )。「女性同士の性行為は気持ちが悪い」では、男性は有意でなかったが、女性は有意であった ( $p < 0.001$ )。

残差分析によれば、「男性同士の性行為は気持ちが悪い」では、男性・女性ともに「そう思う」で「いない」群が期待値より有意に回答が多く、「そう思わない」で「いない」群が期待値より有意に回答が少なかった。「女性同士の性行為は気持ちが悪い」では、女性において「そう思う」では「いない」群が期待値より有意に回答が多く、「そう思わない」では「いる（かもしれない）・わからない」群が期待値より有意に回答が多かった。このことから、男性では女性同士の性行為、女性では男性同士の性行為・女性同士の性行為において、「いる（かもしれない）・わからない」群の方が嫌悪感の弱いことが明らかになった。一方、男性では、同性愛者の友人・知人の有無が男性同士の性行為への嫌悪に関連していないことが確かめられた。

表 12 は、性自認ごとに、友人・知人のなかに性転換している人が「いる（かもしれない）・わからない」群と「いない」群において、「男性は女性のように振る舞うべきではない」「女性は男性のように振る舞うべきで

表 10 友人・知人がいることと同性間の恋愛感情への嫌悪感 (1/2)

				同性愛者の友人・知人		合計
				いる (かもしれない)・わからない	いない	
男	男性が男性に恋愛感情を抱くことは、おかし	そう思う	度数	4	17	21
			期待度数	7.6	13.4	21
			総和の%	2.9%	12.2%	15.1%
			調整済み残差	-1.8	1.8	
	どちらかといえばそう思う	度数	10	22	32	
			期待度数	11.5	20.5	32
			総和の%	7.2%	15.8%	23.0%
			調整済み残差	-0.6	0.6	
	どちらかといえばそう思わない	度数	16	27	43	
			期待度数	15.5	27.5	43
総和の%			11.5%	19.4%	30.9%	
調整済み残差			0.2	-0.2		
そう思わない	度数	20	23	43		
		期待度数	15.5	27.5	43	
		総和の%	14.4%	16.5%	30.9%	
		調整済み残差	1.7	-1.7		
合計	度数	50	89	139		
	期待度数	50	89	139		
	総和の%	36.0%	64.0%	100.0%		
女	男性が男性に恋愛感情を抱くことは、おかし	そう思う	度数	1	6	7
			期待度数	3	4	7
			総和の%	0.6%	3.7%	4.3%
			調整済み残差	-1.6	1.6	
	どちらかといえばそう思う	度数	6	21	27	
			期待度数	11.5	15.5	27
			総和の%	3.7%	12.8%	16.5%
			調整済み残差	-2.4	2.4	
	どちらかといえばそう思わない	度数	15	31	46	
			期待度数	19.6	26.4	46
総和の%			9.1%	18.9%	28.0%	
調整済み残差			-1.6	1.6		
そう思わない	度数	48	36	84		
		期待度数	35.9	48.1	84	
		総和の%	29.3%	22.0%	51.2%	
		調整済み残差	3.8	-3.8		
合計	度数	70	94	164		
	期待度数	70	94	164		
	総和の%	42.7%	57.3%	100.0%		

表 10 友人・知人がいることと同性間の恋愛感情への嫌悪感（2/2）

			同性愛者の友人・知人		合計	
			いる（かもしれない）・わからない	いない		
男	女性が女性 に恋愛感情 を抱くこと は、おかし い	そう思う	度数	2	8	10
			期待度数	3.6	6.4	10
			総和の%	1.4%	5.8%	7.2%
			調整済み残差	-1.1	1.1	
	どちらかと いえばそう 思う	どちらかと いえばそう 思う	度数	8	18	26
			期待度数	9.4	16.6	26
			総和の%	5.8%	12.9%	18.7%
			調整済み残差	-0.6	0.6	
	どちらかと いえばそう 思わない	どちらかと いえばそう 思わない	度数	15	29	44
			期待度数	15.8	28.2	44
総和の%			10.8%	20.9%	31.7%	
調整済み残差			-0.3	0.3		
そう 思わない	そう 思わない	度数	25	34	59	
		期待度数	21.2	37.8	59	
		総和の%	18.0%	24.5%	42.4%	
		調整済み残差	1.4	-1.4		
合計		度数	50	89	139	
		期待度数	50	89	139	
		総和の%	36.0%	64.0%	100.0%	
女	女性が女性 に恋愛感情 を抱くこと は、おかし い	そう思う	度数	0	2	2
			期待度数	0.8	1.2	2
			総和の%	0.0%	1.2%	1.2%
			調整済み残差	-1.2	1.2	
	どちらかと いえばそう 思う	どちらかと いえばそう 思う	度数	8	24	32
			期待度数	13.5	18.5	32
			総和の%	4.9%	14.6%	19.5%
			調整済み残差	-2.2	2.2	
	どちらかと いえばそう 思わない	どちらかと いえばそう 思わない	度数	14	33	47
			期待度数	19.8	27.2	47
総和の%			8.5%	20.1%	28.7%	
調整済み残差			-2	2		
そう 思わない	そう 思わない	度数	47	36	83	
		期待度数	34.9	48.1	83	
		総和の%	28.7%	22.0%	50.6%	
		調整済み残差	3.8	-3.8		
合計		度数	69	95	164	
		期待度数	69	95	164	
		総和の%	42.1%	57.9%	100.0%	

表 11 友人・知人がいることと同性間の性行為への嫌悪感 (2/1)

				同性愛者の友人・知人		合計
				いる (かもしれない)・わからない	いない	
男	男性同士の 性行為は、 気持ちが 悪い	そう思う	度数	15	48	63
			期待度数	22.7	40.3	63
			総和の%	10.8%	34.5%	45.3%
			調整済み残差	-2.7	2.7	
	どちらかと いえばそう 思う	度数	期待度数	22	30	52
			期待度数	18.7	33.3	52
			総和の%	15.8%	21.6%	37.4%
			調整済み残差	1.2	-1.2	
	どちらかと いえばそう 思わない	度数	期待度数	4	5	9
			期待度数	3.2	5.8	9
総和の%			2.9%	3.6%	6.5%	
調整済み残差			0.5	-0.5		
そう 思わない	度数	期待度数	9	6	15	
		期待度数	5.4	9.6	15	
		総和の%	6.5%	4.3%	10.8%	
		調整済み残差	2.1	-2.1		
合計			度数	50	89	139
			期待度数	50	89	139
			総和の%	36.0%	64.0%	100.0%
女	男性同士の 性行為は、 気持ちが 悪い	そう思う	度数	11	31	42
			期待度数	17.8	24.2	42
			総和の%	6.7%	18.8%	25.5%
			調整済み残差	-2.5	2.5	
	どちらかと いえばそう 思う	度数	期待度数	14	32	46
			期待度数	19.5	26.5	46
			総和の%	8.5%	19.4%	27.9%
			調整済み残差	-1.9	1.9	
	どちらかと いえばそう 思わない	度数	期待度数	17	21	38
			期待度数	16.1	21.9	38
総和の%			10.3%	12.7%	23.0%	
調整済み残差			0.3	-0.3		
そう 思わない	度数	期待度数	28	11	39	
		期待度数	16.5	22.5	39	
		総和の%	17.0%	6.7%	23.6%	
		調整済み残差	4.2	-4.2		
合計			度数	70	95	165
			期待度数	70	95	165
			総和の%	42.4%	57.6%	100.0%

表 11 友人・知人がいることと同性間の性行為への嫌悪感（2/2）

			同性愛者の友人・知人		合計	
			いる (かもしれない)・わからない	いない		
男	女性同士の 性行為は、 気持ちが 悪い	そう思う	度数	6	17	23
			期待度数	8.2	14.8	23
			総和の%	4.3%	12.1%	16.4%
			調整済み残差	-1.1	1.1	
	どちらかと いえばそう 思う	度数	期待度数	12	26	38
			期待度数	13.6	24.4	38
			総和の%	8.6%	18.6%	27.1%
			調整済み残差	-0.6	0.6	
	どちらかと いえばそう 思わない	度数	期待度数	13	27	40
			期待度数	14.3	25.7	40
総和の%			9.3%	19.3%	28.6%	
調整済み残差			-0.5	0.5		
そう 思わない	度数	期待度数	19	20	39	
		期待度数	13.9	25.1	39	
		総和の%	13.6%	14.3%	27.9%	
		調整済み残差	2	-2		
合計			度数	50	90	140
			期待度数	50	90	140
			総和の%	35.7%	64.3%	100.0%
女	女性同士の 性行為は、 気持ちが 悪い	そう思う	度数	8	31	39
			期待度数	16.5	22.5	39
			総和の%	4.8%	18.8%	23.6%
			調整済み残差	-3.2	3.2	
	どちらかと いえばそう 思う	度数	期待度数	17	31	48
			期待度数	20.4	27.6	48
			総和の%	10.3%	18.8%	29.1%
			調整済み残差	-1.2	1.2	
	どちらかと いえばそう 思わない	度数	期待度数	16	21	37
			期待度数	15.7	21.3	37
総和の%			9.7%	12.7%	22.4%	
調整済み残差			0.1	-0.1		
そう 思わない	度数	期待度数	29	12	41	
		期待度数	17.4	23.6	41	
		総和の%	17.6%	7.3%	24.8%	
		調整済み残差	4.2	-4.2		
合計			度数	70	95	165
			期待度数	70	95	165
			総和の%	42.4%	57.6%	100.0%

表 12 友人・知人がいることと性別越境への嫌悪感 (1/2)

			同性愛者の友人・知人		合計	
			いる (かもしれない)・わからない	いない		
男	男性は、 女性のように 振る舞う べきではない	そう思う	度数	8	36	44
			期待度数	8.4	35.6	44
			総和の%	2.6%	11.5%	14.1%
			調整済み残差	-0.2	0.2	
	どちらかと いえばそう 思う	度数	15	65	80	
			期待度数	15.3	64.7	80
			総和の%	4.8%	20.8%	25.6%
			調整済み残差	-0.1	0.1	
	どちらかと いえばそう 思わない	度数	22	82	104	
			期待度数	19.9	84.1	104
総和の%			7.0%	26.2%	33.2%	
調整済み残差			0.6	-0.6		
そう 思わない	度数	15	70	85		
		期待度数	16.3	68.7	85	
		総和の%	4.8%	22.4%	27.2%	
		調整済み残差	-0.4	0.4		
合計	度数	60	253	313		
	期待度数	60	253	313		
	総和の%	19.2%	80.8%	100.0%		
女	男性は、 女性のように 振る舞う べきではない	そう思う	度数	2	13	15
			期待度数	3.5	11.5	15
			総和の%	0.6%	4.0%	4.6%
			調整済み残差	-0.9	0.9	
	どちらかと いえばそう 思う	度数	5	46	51	
			期待度数	12	39	51
			総和の%	1.5%	14.2%	15.7%
			調整済み残差	-2.5	2.5	
	どちらかと いえばそう 思わない	度数	20	72	92	
			期待度数	21.6	70.4	92
総和の%			6.2%	22.2%	28.4%	
調整済み残差			-0.5	0.5		
そう 思わない	度数	49	117	166		
		期待度数	38.9	127.1	166	
		総和の%	15.1%	36.1%	51.2%	
		調整済み残差	2.6	-2.6		
合計	度数	76	248	324		
	期待度数	76	248	324		
	総和の%	23.5%	76.5%	100.0%		

表 12 友人・知人がいることと性別越境への嫌悪感（2/2）

			同性愛者の友人・知人		合計	
			いる (かもしれない)・わからない	いない		
男	女性は、 男性のよう に振る舞う べきではない	そう思う	度数	5	17	22
			期待度数	4.2	17.8	22
			総和の%	1.6%	5.4%	7.1%
			調整済み残差	0.4	-0.4	
	どちらかと いえばそう 思う	度数	12	66	78	
			期待度数	15	63	78
			総和の%	3.8%	21.2%	25.0%
			調整済み残差	-1	1	
	どちらかと いえばそう 思わない	度数	21	86	107	
			期待度数	20.6	86.4	107
総和の%			6.7%	27.6%	34.3%	
調整済み残差			0.1	-0.1		
そう 思わない	度数	22	83	105		
		期待度数	20.2	84.8	105	
		総和の%	7.1%	26.6%	33.7%	
		調整済み残差	0.5	-0.5		
合計	度数	60	252	312		
	期待度数	60	252	312		
	総和の%	19.2%	80.8%	100.0%		
女	女性は、 男性のよう に振る舞う べきではない	そう思う	度数	1	5	6
			期待度数	1.4	4.6	6
			総和の%	0.3%	1.5%	1.8%
			調整済み残差	-0.4	0.4	
	どちらかと いえばそう 思う	度数	5	35	40	
			期待度数	9.4	30.6	40
			総和の%	1.5%	10.7%	12.3%
			調整済み残差	-1.8	1.8	
	どちらかと いえばそう 思わない	度数	30	95	125	
			期待度数	29.5	95.5	125
総和の%			9.2%	29.1%	38.3%	
調整済み残差			0.1	-0.1		
そう 思わない	度数	41	114	155		
		期待度数	36.6	118.4	155	
		総和の%	12.6%	35.0%	47.5%	
		調整済み残差	1.1	-1.1		
合計	度数	77	249	326		
	期待度数	77	249	326		
	総和の%	23.6%	76.4%	100.0%		

はない」への人数比率を集計したものである。

2 検定の結果、「男性は女性のように振る舞うべきではない」では、男性は有意でなかったが、女性は有意であった ( $p<0.05$ )。「女性は男性のように振る舞うべきではない」では、男性・女性ともに有意ではなかった。

残差分析によれば、「男性は女性のように振る舞うべきではない」では、女性において「どちらかといえばそう思う」において「いない」群が期待値より有意に回答が多く、「そう思わない」で「いる (かもしれない)・わからない」群が期待値より有意に回答が多かった。このことから、女性においては、性転換をしている友人・知人が「いる (かもしれない)・わからない」群の方が、「男性は女性のように振る舞うべきではない」という規範意識の弱さとの間に関連のあることが確かめられた。

### 3 考察

本調査における結果を、(1)非規範的セクシュアリティの比率、(2)性自認による差異、(3)友人・知人がいることと性的マイノリティへの抵抗感・嫌悪感の関係、の3つの観点から考察を行いたい。

#### (1) 非規範的セクシュアリティの比率

本調査においては、法律上の性別と性自認が一致しない者の割合は1.1%、性的指向において非異性愛を選択した者の割合は9.7%であった。

藤山らは、2012年に実施した体育・スポーツ関連学部・学科等に所属する大学生、大学院生の調査 ( $n=3243$ ) において、法律上の性別の代わりに身体の性別について尋ね、身体の性別と性自認の関係について質問している (藤山ほか 2014)。その結果は、身体と性自認が同一 95.4%、身体と (性自認が) 違和 1.7%、その他 1.1%、無回答 1.9%であった。性的指向では、異性愛 90.4%、同性愛 3.3%、両性愛 2.8%、その他 1.5%、無

回答 2.0%であった。

本調査と比較すると、法律上の性別もしくは身体の性別と性自認が一致しない者の割合は、本調査では 1.1%であったのに対し、藤山らの調査では「身体と違和」が 1.7%、「その他」を含めると 2.8%であり、本調査の 2 倍以上であった。

つぎに性的指向については、本調査では非異性愛を選択した者は 9.7%であり、藤山らの調査では 7.6%であった。また本調査では同性愛（0.2%）、両性愛（1.9%）をあわせて 2.1%であったのに対し、藤山らの調査では 6.1%であった。その理由として、藤山らが「異性愛」「同性愛」「両性愛」「その他」の中から選択させたのに対し、本調査では藤山らの選択肢に加えて、「わからない」「決めたくない・決めてない」という選択肢を設けたことが関係している可能性がある。すなわち、本調査では「わからない・決めてない」が設けられたことにより、「同性愛」や「両性愛」が減少することになったとも考えられる。学生が近くに座っている教室という環境下において、同性愛（や両性愛）を選んだことが周囲に知られるリスクを考慮し、本調査では「わからない」「決めたくない・決めてない」を選択した可能性があるからである。

また、藤山らの調査と本調査は、大学生を対象としている点で共通するが、藤山らは体育・スポーツ関連学部・学科に限定しているのに対し、本調査では対象学部を限定していない。とりわけ体育・スポーツ関連学部・学科の学生であることがどのような影響を及ぼしているか、今後の調査においても注視していきたい。

いずれにせよ、両調査において、身体もしくは法律上の性別とは異なる性自認を持つ者が少なく見積もっても 1%、非異性愛指向を持つ者が 7%であったことは、大学においても性的指向・性自認が非規範的である学生が一定割合存在することを示しており、非規範的なセクシュアリティをもつ学生が大学生活において直面する困難に、大学として対応していく必

要性を示していると言えよう。

## (2) 性自認（性別）による差異

男性同士・女性同士・男女両方への恋愛感情、男性同士・女性同士の性行為、性別越境（男性が女性のような振る舞いをする事、女性が男性のような振る舞いをする事）、男性の同性愛者・女性の同性愛者・男女両方に恋愛感情を抱く人・性転換をした人と友達になること、のそれぞれの項目において、性自認別に比較したところ、恋愛感情においてはいずれにおいても男性に嫌悪感が強く、性行為においては男性同士では男性の嫌悪感が強く、女性同士では女性の嫌悪感が強い、性別越境においては男性に不快感が強く、友達になることに関しては女性同性愛者を除いて、男性に抵抗感が強い、ことが明らかになった。なお、女性同性愛者と友達になることについては男女間に差は見られなかった。女性よりも男性に同性愛者やトランスジェンダーへの嫌悪感が強いことは先行研究（Hill and Willoughby 2005）においても指摘されてきたことであり、本研究においても同様の結果が確認されたといえる。

一方で、本研究では、女性同士の性行為においては女性のほうが男性よりも嫌悪感が強かったが、これは先行研究で指摘されてきたこととは異なる結果である。以下、この点について考察したい。まず確認しておきたいのは、男性の方が女性よりも女性同性愛への受容度が高いわけではない、ということである。そのことは、女性同士の恋愛感情では、女性よりも男性に嫌悪感が強いことに示されている（表3参照）。

それでは、男性の方が女性よりも女性同士の性行為に関して嫌悪感は弱いことは、どのように解釈できるだろうか。ここで、男性における男性同士の性行為と女性同士の性行為の嫌悪感を比較してみよう（表4参照）。男性は「男性同士の性行為は気持ち悪い」に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」（以下、「(どちらかといえば) そう思う」と表記）と答え

た割合は39.2%であったのに対し、「女性同士の性行為」に関して「(どちらかといえば) そう思う」は20.7%とほぼポイントが半減している。それに対して、女性で「男性同士の性行為」「女性同士の性行為」に「(どちらかといえば) そう思う」と答えた割合は、それぞれ29.1%、29.3%である。以上から、男性よりも女性に嫌悪する人の人数比率が高くなったのは、女性は、男性同士の性行為と女性同士の性行為の場合で違いがみられないのに対し、男性は女性同士の性行為について嫌悪感が低くなったためであるといえるだろう。

男性が、男性同士の性行為に関しては強い嫌悪感を示すにもかかわらず、女性同士の性行為には比較的「受容」的なのはなぜだろうか。男性優位社会において、女性同士のセクシュアリティはレズビアン・ポルノグラフィのようにしばしば性化 (sexualize) されていることをその理由として挙げることができるだろう (掛札 1992)。男性にとって女性同士を含め、女性のセクシュアリティは消費の対象であり、そのことが女性同士のセクシュアリティに対して「受容」的な態度をもたらしたと考えられよう。

### (3) 友人・知人がいることと性的マイノリティへの抵抗感・嫌悪感の関係

男性同性愛者・女性同性愛者・男女両方に恋愛感情を抱く人・性転換した人と友達になること、男性同士・女性同士の恋愛感情、男性同士・女性同士の性行為、性別越境 (男性が女性のように振る舞うこと・女性が男性のように振る舞うこと) のそれぞれの項目において、性自認ごとに、同性愛者の友人・知人が「いる (かもしれない) ・わからない」群と「いない」群の間での人数比率を比較したところ、男性では友達になることについては、性転換した人を除いて、「いる (かもしれない) ・わからない」群に抵抗感が弱かった。恋愛感情・性行為・性別越境では、男性において、男性同士の性行為に関して「いる (かもしれない) ・わからない」群の嫌悪感が弱かったが、他の項目では両群に差は見られなかった。一方、女性では、

「女性は男性のように振る舞うべきではない」では両群に差は見られなかったが、残りのすべてにおいて「いる(かもしれない)・わからない」群の抵抗感・嫌悪感が弱かった。以上から、女性においては同性愛者や性転換をした友人・知人がいることが嫌悪感や抵抗感の弱さに関連がある一方、男性では友達となることへの抵抗感の弱さには関連しているものの、恋愛感情・性行為・性別越境への嫌悪感の弱さとは関連は見出されなかった。

友人・知人が「いる(かもしれない)」ことと抵抗感・嫌悪感の低さの関係は、2通りの説明が可能である。まず、身近に性的マイノリティが友人・知人として存在していることによって、(日常的に)具体的な接触が生じ、そのことにより性的マイノリティへのステレオタイプや誤解に気づき、抵抗感や嫌悪感を減少させる可能性である。つぎに、否定的な感情・態度を持っていないことが友人・知人からのカミングアウトを促進し、友人・知人を持つ人が増えるという可能性もある。

また女性は、表7に示したように、男性よりも同性愛者および性転換をした友人・知人を多くもっていたが、ここでも、女性の嫌悪感や抵抗感の弱さが友人・知人を多く持つことをもたらしたのか、それとも友人・知人を多くもつことが嫌悪感や抵抗感を弱くしたのか、両方の可能性が指摘できる。現段階では両方の可能性を残しつつ、今後さらなる調査を進めていきたい。

一方で男性においては、友人・知人を持つことと抵抗感や嫌悪感の弱さには関連していなかった。そこで、男性は女性とは異なる状況下に置かれている可能性について検討したい。具体的には、男性には性的マイノリティの友人・知人との具体的な接触によっても認識や態度を変容させない何か作用していることを想定してみよう。そのひとつとして、同性の友人集団がある種の準拠集団となっている可能性を指摘したい。じっさいに、性自認別に性別越境をした女性と男性へのまなざしを比較した表5でも示されているように、男性は女性よりも強いジェンダー規範に縛られている。

すなわち、女性が男性のような振る舞いをするよりも、男性が女性のような振る舞いをする事への抵抗感が強く示されているのである。ここから、性的マイノリティの友人や知人を持っていても、同性の友人からなる準拠集団のジェンダー規範や性的マイノリティへの嫌悪感・抵抗感の強さが、男性の認識や態度変容を阻んでいる可能性もまた今後検証していく必要があるだろう。

#### 文献

藤山新・飯田貴子・風間孝・藤原直子・吉川康夫・来田享子, 2014 「体育・スポーツ関連学部 of 大学生を対象としたスポーツと性的マイノリティに関する調査結果」 『スポーツとジェンダー研究』 vol. 12, 68-79.

掛札悠子, 1992 『レズビアンである、ということ』 河出書房新社.

文部科学省, 2014 『学校における性同一性障害に係る対応に関する状況調査』.

文部科学省, 2015 『性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について』.

文部科学省, 2016 『性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について（教職員向け）』.

Hill, Darryl, and Willoughby, Brian, 2005, The Development and Validation of the Genderism and Transphobia Scale, *Sex Roles* 53 (7-8): 531-543.

#### 注

- 1 2018年5月、WHO（世界保健機関）は国際疾病分類を改訂し、性同一性障害（Gender Identity Disorder）という病名の廃止を決定するとともに、新たに性別不一致（Gender Incongruence）という名称を用いることを決定した。
- 2 たとえば、日高庸晴による Reach Online 調査の結果を参照のこと（<http://www.health-issue.jp/gay-report/>）。
- 3 こうした困難は、大学においては、学生だけでなく、性的マイノリティと自認する教職員においても生起している。
- 4 性的指向・性自認に取り組む必要性は、自殺対策基本法にもとづく「自殺総合対策大綱」（2012）やいじめ防止対策基本法にもとづく「いじめ防止等のための基本的な方針」（2017）に記載されている。「大綱」には、自殺念慮の割合が高いことが指摘されている性的マイノリティについて、無理解や偏見等がその社

会的要因の一つであると捉えて、教職員の理解を促進する、と述べられている。また「基本的な方針」には、性同一性障害や性的指向・性自認に係る児童生徒に対するいじめを防止するため、性同一性障害や性的指向・性自認について、教職員への正しい理解の促進や、学校として必要な対応について周知する、と書かれている。